

## 被災者と共に復興を願う日々

岩手・宮城内陸地震は、栗駒耕英地区の温泉宿泊施設「いこいの村栗駒」で料理長を務めていた高倉吉雄さん(栗駒耕英)の仕事と生活の場を奪いました。

家計を支えるため一時は市外での就職も考えましたが、家族と地域を守るため、栗駒文字荒砥沢地区の「さくらの湯」で臨時の調理師として働くことを決めました。

チョウザメ料理が話題となった同施設は震災で大打撃を受けましたが、高倉さんの料理の評判を聞きつけ客足が戻りつつあります。高倉さんは耕英地区特産のイワナと大根料理を品書きに加え、地元を応援したいと考えています。藩政時代に仙台藩領で最高品質と伝えられる文字地区の幻のそばを復活させる夢を経営者らと語り、耕英と文字両被災地の復興を目指し、被災者同士で支えあいながら歩んでいます。



### 目次

岩手・宮城内陸地震	2
今月の目玉	3
くりはら研究所だより	4・5
きょうどうの広場	6
学校きょういくの窓	7
特集	8~11
報告	12~14
話題今くりはら	15
市からのお知らせ	16~18
情報あれこれ	19
休日急患診療当番医ほか	20

## 市内の文化財教策

④ 青野遺跡 — 奈良時代の家の跡を発見！



▲ カマド跡と出土品

所在地 築館青野

青野遺跡は標高約37mの河岸段丘上に位置する古代の遺跡です。防火水槽設置工事に伴い、1月から2月にかけて発掘調査を行いました。遺構には、地面を掘りくぼめた堅穴住居跡と呼ばれる古代の家の跡が2棟あります。どちらも大きさが3.5mほどの小型のもので、カマドは北側に造られていました。特に保存状態が良好だった住居跡では、食器の須恵器<sup>すゑき</sup>と、カマドの近くから煮炊きのための土師器<sup>じし</sup>甕<sup>かめ</sup>と呼ばれる遺物が出土しています。カマドは側壁や天井の一部が確認されました。この家のカマドは堅穴住居跡の内部に黄褐色粘土を貼り付けて造られており、火を用いた跡が残っていました。ちょうど昔の家の土間につくられたカマドと似ているものです。堅穴住居跡の外側にはトンネル状に穴が掘られ、先端部分は深くくぼんでいます。家の中で煮炊きをした煙がこのトンネルを通じて外に排出される構造になっています。確認された家の跡は、出土遺物から奈良時代のもと考えられます。

今回、約100mの調査で2棟の家の跡が近接して確認されたことから、調査区の周辺にはさらに多くの家の跡があると考えられます。

問 教育部文化財保護課 ☎(42)3515